

かけはし

会報 78号 発行:特定非営利活動法人全国LD親の会 発行人:東條 裕志
 事務局:〒 151-0053 東京都渋谷区代々木 2-26-5 パロール代々木 415
 TEL/FAX:03-6276-8985 E-MAIL:jimukyoku@jpald.net URL:http://www.jpald.net/



特定非営利活動法人

全国LD親の会第7回総会および第13回全国LD親の会公開フォーラム開催

第7回総会および第13回全国LD親の会公開フォーラムを下記の通り行います。なお、総会議案書等については5月上旬に別途発送します。総会に引き続き、研修会、懇親会を行います。

●第7回総会

日時:2014年6月14日(土)13:00~14:20
 会場:国立オリンピック記念青少年総合センター
 センター棟 研修室 402号
 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

●研修会

日時:2014年6月14日(土)14:30~16:45
 会場:国立オリンピック記念青少年総合センター
 センター棟 研修室 402号
 テーマ:高校生アンケート結果から見えてくるニーズ

趣旨

2007年に特別支援教育が制度としてスタートして7年が経過し、小中学校では支援も進んできていますが、高等学校においては、まだ支援体制の整備が進んでいないところも多いようです。

小学校から中学校に進学する際は、同じ義務教育の範囲内であり、進む中学校も公立であれば概ね決まっています。一方、中学校から高等学校等に入る場合は、義務教育でないことや学校等の選択肢がいくつもあるため、進路の情報をきちんと入手することが困難になる場合があります。

また、高等学校等の卒業時には、就職・進学と中学校卒業時と比べてかなり広い範囲の選択肢があり、それに向けて高等学校在学中に何を学ぶのかについても、様々な選択が必要となります。さらに卒業後の成人期へ向けた生活を考え、保護者の心配も小中学校時代とは変わってきます。

そこで今回の研修会では、まず2012年12月から2013年1月に行ったNPO法人全国LD親の会・会員調査の集計結果を基にした、高校生相当の人とその保護者がどのようなことに悩んでいるのか、どのように考えているのか等の報告を行います。次いで、実際に高校生以上の人を対象にした取り組みを行っている会からその取り組みについて紹介をいただきます。

それらを基に、参加者全員がグループに分かれて自由に意見や情報を出し合う形式で、高校生の課題・取り組みを話し合いたいと思います。

内容

- ① 高校生アンケート結果報告:東條裕志
「アンケートの結果から見えてきたこと」
- ② 高校生以上に対する取り組みの報告:沼田夏子
「新潟いなほの会-発達障害児者親の会-の取り組み」
- ③ グループ討議:参加者全員

高校生アンケートから見えてきた課題等について、地域や子どもの年齢層の違いを超え、少人数のグループ別で参加者どうし意見を交換していただきます。

(東條)

●懇親会

日時:2014年6月14日(土)17:30~19:00
 会場:国立オリンピック記念青少年総合センター内
 「レストランさくら」

会費:5,000円

恒例の懇親会です。

普段会う機会が少ない遠い地域の会の人達とも話ができるチャンスです。研修会で出された意見のメモを会場に掲示する予定で、他のグループの意見を参考にしたり、さらに交流を深められるような企画を考えています。たくさんのご参加をお待ちしています。

●第13回全国LD親の会公開フォーラム

「これからの発達障害支援と合理的配慮

～個々のニーズを具体的支援へと結びつけるために～」

日 時:2014年6月15日(日)

10:00～16:40 (開場 9:30)

会 場:国立オリンピック記念青少年総合センター

国際交流棟 レセプションホール

主 催:NPO法人全国LD親の会

参加費:1,500円

企画趣旨

2014年1月20日、ようやく日本は障害者権利条約に批准しました。2007年9月28日の障害者の権利に関する条約(障害者権利条約)署名以来、批准に向けて国内法の整備を行ってきました。2013年6月に成立した障害者差別解消法の対象は、教育、公共交通、医療など幅広い分野にわたっていて、今後、政府が分野別に指針を定めてどんな行為が差別に当たるかなどが示されることになっています。障害者に対して行う「合理的配慮」については、障害当事者と協議して策定するということになっていますが、障害者自身が自らの意思で自分の権利を主張し、確保していかなくてはなりません。教育の分野においても、2012年7月にとりまとめられた「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」の中で、「合理的配慮」は一人一人の障害の状態や教育的ニーズ等に応じて決定されることとしていることから、今後、当事者一人一人のニーズを的確にとらえ、それに応じた合理的配慮を支援体制の中にどのように構築していくかが課題となります。当事者や家族は、個別に抱えている困難さを的確に把握し、基礎的環境整備の状況を踏まえた「合理的配慮」を訴えていくことが求められているといえます。

「合理的配慮」は障害者の権利に関する条約において新たに提唱された概念です。「合理的配慮」について議論を積み重ね、共通理解を図っていくために、今回の公開フォーラムでは、講演、行政解説に加えてワークショップを企画しました。疑似体験を通してそのニーズを整理し、それぞれの環境において具体的にどのような配慮の構築が合理的配慮として認められ、必要な支援となり得るのかを考える機会とします。

発達障害のある子どもへの支援の充実に向けての課題とその解決への方策について、参加者一人一人が「合理的配慮」について理解を深めていく場にしたいと思っています。

プログラム

10:00 開演挨拶

【講演】

「発達障害のある子どもの教育と合理的配慮

～豊かな学びと生活を確かに保障していくために～」

柘植 雅義 (筑波大学 人間系 障害科学域 知的・

発達・行動障害学 教授)

11:30【報告】

「発達障害のある高校生の実態調査報告

～NPO法人全国LD親の会・会員調査より～」

東條 裕志 (NPO法人全国LD親の会)

午後の部

12:40【行政解説】

大山 真未 (文部科学省 特別支援教育課 課長)

金田 弘幸 (厚生労働省 職業安定局 障害者雇用

対策課 地域就労支援室 室長)

14:20【講演&ワークショップ】

「障害のある子どもの心理」と心理的疑似体験

両川 晃子 (信州大学付属病院、長野県スクール

カウンセラー、特別支援教育士SV)

16:40 終演予定

●青年の交流会

日 時:2014年6月14日(土) 12:45 集合

場 所:国立オリンピック記念青少年総合センター

センター棟 107号

テーマ:東京スカイツリーにのぼろう

8年前の横浜みなとめぐり、6年前の原宿めぐり、4年前の下町めぐり、2年前のスカイツリーを見よように続き、今回のテーマは、スカイツリーにいいよ「のぼろう」です。

さて、今の東京観光の目玉は何と言っても「東京スカイツリー」です。スカイツリー完成後2年と1ヶ月、やっと入場券を手に入れられるようになりました。ということで、今回はスカイツリーにのぼりましょう。

センターに集合後、代々木公園から地下鉄で浅草へ。仲見世をひやかしながら浅草寺にお参りして、スカイツリーに向かいます。スカイツリーは団体予約(時間指定)で入るので、スカイツリー展望デッキまではスイスイのぼれます。そこから地上 450mの展望回廊までは待たされると思います。どんな景色が見られるかな。雨天決行です。

解散後、希望者のみ懇親会(別料金)に行きます。

【注意事項】

今回は障害者団体としてスカイツリーにのぼります。障害者手帳をお持ちの方は持参してください。もちろん、手帳を持っていなくても参加できます。20名以上参加しないと団体扱いにならないので、たくさんの参加をお待ちしています。定員 36名先着順。(参加者:18歳以上で会場まで自力で参加でき、自力で解散地点から帰れる人)

詳しくは、2014年「青年の交流会」の案内のチラシをご覧の上、チラシ裏面の申込書をお送り下さい。(内藤聖)

発達障害児のためのサポートツールの 個別の使い方とユニバーサルデザイン化



サポートツール・データベース事業では、「教材・教具は使い方こそが大切である」といった観点から、単なる教材・教具のデータ収集だけでなく、教材・教具の有効的な使い方を示した実証や動画を示し、通常の学級でもユニバーサルデザインの視点を加えて授業展開できるようなデータベースの構築をめざしています。そして、教育分野での ICT 活用と子どもの状態に応じた支援機器の充実をめざして、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境の整備について理解・啓発を進めています。

子どもが自分に合ったサポートツールを使用していくことは、子ども自身が自分のことを知り、自分に合った学習方法を手に入れて、自ら学んでいく力をつけていくことであり、本人が自己理解を進めていく道筋につながっていきます。発達障害のある子ども達が自分の生活・人生をいきいきとしたものにしていくための「サポートツール」の情報を発信していきたいと思えます。

1、サポートツール・データベースへの追加

2013年度は、下記項目をサポートツール・データベースに追加しました。

- 国語 「漢字を正しく読むことができない」「漢字が覚えられない」「漢字の意味がわかりにくい」「消しゴムで字がきれいに消せない」など 10件
- 対人関係・社会性 「保育所で集団指示が通らない」など 3件

保育所など就学前の子ども達や就労場面での取り組みについてもサポートとなるような教材・教具の掲載を増やしていく予定です。

2、動画

発達障害のある子ども達が抱えている課題に着目していろいろな作業への取り組み方を撮影し、理解しやすい動画を掲載しています。2013年度の掲載動画は下記の通りです。

- 定規の使い方
- 消しゴムの使い方
- コンパスの使い方
- 顔の洗い方
- 頭の洗い方
- 身体の洗い方

3、サポートツール全国キャラバン 2013 in 静岡

教材教具研修会「発達障害がある子ども一人ひとりの
ニーズに応じた指導・支援の具体的な方法」

日時:2014年2月16日(日)10:00~16:40

会場:静岡県コンベンションアーツセンター/グランシップ
参加者:114名(一般 68名、会員 46名)

- ・保護者 56(きんもくせい正会員 43、その他 13)
- ・教員 26(小学校 22、中学校 2、高校 1、その他 1)
- ・作業療法士 8(医療 5、療育 1、福祉 1、その他 1)
- ・その他 24(医師、保健師、言語聴覚士、社会福祉士
相談支援専門員、指導員、支援員 発達障害者支援
コーディネーターなど)

共催:静岡県LD等発達障がい児・者親の会 きんもくせい
講演 1「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと
教材の活用」～使い方が変わる教材の有効性～

講師:山田充氏

(特別支援教育士スーパーバイザー)

講演 2「発達障害のある子どもの感覚運動機能に応じた
教材教具の工夫」

講師:嶋谷和之氏

(日本感覚統合学会テストメカニクスインストラクター)

ワークショップ:ビデオ・資料をもとにグループごとに事例
の子どもの特徴・抱えている問題点を検討して、可能性や
支援方法を考えました。

日本各地で大雪に見舞われた週末でしたが、たくさん
の方が参加してくださいました。「きんもくせい」の皆さま、
ありがとうございました。

参加者アンケートより

- ・どんなよい教材でも、本人の困っていることに合わない
本人のやる気を失わせていくことがあるとわかった。
- ・子どもがいうことをきくこと、全きかないことがあり不思議
でしかたなかったが、納得させられるということが腑に落
ちた。
- ・自分たちの発想とは違う側面からの話がきけて、とても新
鮮だった。支援はいろいろな職種でチームでやることの
大切さを実感した。

4、2014年度の事業内容

1、研修会(サポートツール全国キャラバン)の開催

①サポートツール全国キャラバン 2014 in 富山

2014年9月28日(日)

②サポートツール全国キャラバン 2014 in 大分

③四国地方(予定)

2、サポートツール・データベース事業の策定運営会議

教材・教具の具体的な使い方とユニバーサルデザイン
としての使い方、研修会のプログラムについて検討し、そ
の内容をWeb上で発信していきます。

3、「発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方
とユニバーサルデザイン化」についての報告書冊子を作
成します。(井上)

特別支援教育支援員養成事業



発達障害を含む様々な障害のある児童生徒に対する学校生活上の介助や学習支援などを行う「特別支援教育支援員」の経費については地方財政措置が講じられ、平成 25 年度は、公立幼稚園、小・中学校及び高等学校において、全国で約 45000 人の特別支援教育支援員が活用されています。しかし、その効果についてはバラツキや学校現場での混乱等も指摘されており、支援員への効果的な研修が求められています。

NPO法人全国LD親の会では、平成 21 年度から支援員の養成方法の研究に取り組んできました。平成 25 年度の取り組みを報告します。

1. 特別支援教育支援員養成講座

養成講座には、たいへん多くの方に応募いただきました。

(1) 支援員コース・学習支援員コース

◆日程: 2013年 8月 31日(土)～11月 16日(土)

◆会場: 神戸市勤労会館 3F 講習室 308

◆運営協力: 兵庫LD親の会「たつの子」

◆コース:

・支援員コース[講習: 5日間(21科目/30時間)]

・学習支援員コース[講習: 7日間(27科目/41時間)]

◆講師:

特別支援教育士SVを中心とした有資格者19名

◆受講者:

支援員コース 51名(修了46名)

学習支援員コース 16名(修了16名)

◆受講者の属性:

・親の会会員 12名

・一般 55名(現職教員3名、現職支援員・介助員8名、福祉事業所指導員13名、保育士3名、大学生5名 etc.)

(2) ボランティア支援員養成講座 in 福岡

◆日程: 2014年 1月 11日(土)、12日(日)

◆会場: ふくふくプラザ(福岡市市民福祉プラザ)

◆運営協力: 福岡発達障がい者親の会「たけのこ」

◆後援: 福岡県教育委員会、福岡市教育委員会

◆コース: ボランティア支援員コース

[講習: 2日間(10科目/13時間)]

◆講師:

特別支援教育士SVを中心とした有資格者8名

◆プログラム:

第1日: 1月 11日(土) 9:20～17:30

科目	
	オリエンテーション
1	特別支援教育概論 酒井 均(筑紫女学園大学)
2	主な障害の特性の理解 納富 恵子(福岡教育大学大学院)
3	ボランティア支援員としての業務や心構え 花熊 暁(愛媛大学)
4	子どもへの対応の基本 苫廣 みさき(堺市立五箇荘東小学校)
5	障害のある子どもの心理 苫廣 みさき(堺市立五箇荘東小学校)

第2日: 1月 12日(日) 9:20～17:20

6	学級・学校での支援の仕方、担任との連携の仕方 小林 玄(立教女学館短期大学)
7	保護者への対応 山岡 修(全国LD親の会)
8	子どもの特性と対応方法 1 社会性・コミュニケーション/行動面の困難とサポート方法 日野 久美子(佐賀市立勸興小学校)
9	子どもの特性と対応方法 2 自立生活面・学校生活面での困難とサポート方法 公文 眞由美(久留米市立南薫小学校)
10	ワーク(ロールプレイ、グループ討議) 日野 久美子、公文 眞由美

◆受講者: 60名(修了60名)

◆受講生の属性

・親の会会員 22名(たけのこ、すばる、元気塾)

・一般 38名(現職支援員・介助員17名、大学生5名、学童指導員 etc)

◆受講者の感想より

・支援員の心構え・役割・位置づけがわかった。

・過剰支援でなく支援の最小化を目指すことを学んだ。

・「障がいの特性を知り、理解する」ことによって支援につなぐことを学んだ。

・成功までのプロセスでの支援の仕方が大事で、子どもにとって成功体験が重要であることを知った。

・具体的な実践例(付箋の利用・言葉賭け・ほめ方など)が参考になった。

・高いレベルの講師陣で、大変満足でした。

◆講座受講満足度

「とても満足している」78%、「やや満足している」22%

(3) ボランティア支援員養成講座 in 東京

- ◆日程:2014年2月15日(土)、16(日)
- ◆会場:国立オリンピック青少年総合センター 研修室
- ◆ボランティア支援員コース:[講習:2日間(10科目)]
- ◆運営協力:にんじん村
- ◆後援:東京都教育委員会、渋谷区教育委員会
- ◆講師:特別支援教育士SVを中心とした有資格8名
- ◆プログラム:

第1日:2月15日(土) 10:00~15:20

	科目
	オリエンテーション
1	ボランティア支援員としての業務や心構え 吉田 昌義(帝京大学文学部教授)
2	特別支援教育概論 柘植 雅義(国立特別支援教育総合研究所)
3	学級・学校での支援の仕方、担任との連携の仕方 漆澤 恭子(植草学園短期大学)

第2日:2月16日(日) 9:00~16:50

6	保護者への対応 山岡 修(NPO法人全国LD親の会)
7	主な障害の特性の理解(箕 倫子(お茶の水女子大学大学院教授)
8	子どもの特性と対応方法 社会性・コミュニケーション・行動面の困難とサポート方法 増田 博信(ときがわ町立都幾川中学校)
9	子どもの特性と対応方法 自立生活面・学校生活面での困難とサポート方法 上原 芳枝(リソースセンターone)
10	ワーク 上原 芳枝(リソースセンターone)

※2月15日は記録的大雪のため、交通機関が乱れ、開始時間を1時間遅らせました。「4. 子どもへの対応の基本」「5. 障害のある子どもの心理」については、講師の両川晃子先生が大雪のため会場にいらっしゃることができず、開講できませんでしたが、受講生には、質問用紙を配布し、両川先生に対応いただきました。

- ◆受講者:27名(修了26名)
- ◆受講生の属性
 - ・親の会会員14名(にんじん村、けやき、千葉コスモ、埼玉麦 星の子、アインシュタイン)
 - ・一般13名(現職支援員・介助員、保育士 etc)
- ◆受講者の感想より
 - ・ボランティア支援員としての基本や心構えがよく理解できた。
 - ・とても具体的な話を聞け、担任と支援員の関係、支援員の役割を学べた。担任の考え、子ども達(本人/クラ

ス)の気持ち分かり、様々な子ども達の視点が理解できた。

- ・保護者の対応への基本が分かりやすく、実際に役立つヒントがたくさんあった。
- ・普通学級の担任の学級運営の考えが分かり、どのように協力していけばうまく支援できるのかを考えさせられた。担任との連携、子どもとの信頼関係が大切で、コミュニケーションが重要だと感じた。
- ・大雪のトラブルの対応、たいへん適切だった。

◆講座受講満足度

「とても満足している」80%、「やや満足している」16%

2.テキストの作成

テキスト(下巻)が完成しました。

[下巻の目次] (A4版・182ページ)

F. 行動面等の困難とサポート方法

- I 自立生活面での困難とサポート方法
- II 学校生活場面での困難とサポート方法
- III 社会性・コミュニケーションの困難とサポート方法
- IV 行動面の困難とサポート方法
- V 身体介助の方法(介護・介助の基礎、移動介助)
- VI 視覚障害の介助・支援の方法(弱視を含む)
- VII 聴覚障害の介助・支援の方法(難聴を含む)

G. 学習面の困難とサポート方法

- I 読み書きの困難とサポート方法
- II 言葉(聞く、話す)の困難とサポート方法
- III 算数の困難とサポート方法
- IV 教材・教具の利用方法

H. ロールプレイ・実習

- I ロールプレイング、事例検討
- II 現場実習(現場見学)

<おわりに>

特別支援教育支援員や学校支援ボランティア養成研修の体系化・標準化を図り、特別支援教育支援員や学校支援ボランティアの質的な向上に資することを目的に、全国LD親の会が特別支援員養成事業を始めてから5年が経過しました。実行委員の先生方(上野先生、竹田先生、花熊先生、柘植先生、梅田先生)をはじめ、多くの先生方のご指導、お力添え、会員の皆様のご協力のお陰で、養成研修の体系化、標準化を提示することができました。深く御礼申し上げます。

本事業の成果は学校現場だけでなく、地域での障害のある子どもへの適切なサポートの広がりにも有効です。今後は、この成果を地域でどのように普及させていくかが課題です。各親の会の皆様の奮起を期待しています。

(内藤孝子)

平成27年度予算要望

平成27年度の予算編成について、平成26年4月に、文部科学大臣・厚生労働大臣あてに「平成27年度予算要望書」を提出しました。

平成27年度 文部科学省関係予算要望事項

- LD、ADHDを対象とした通級加配の人員を計画的に確保していくこと
- 合理的配慮を確保しつつ、インクルーシブ教育システムの充実の推進をはかること
 - ・通常の学級において、学級規模を小さくすることや複数教員による指導の充実の促進
 - ・大学入試や高等学校入試における合理的配慮の拡充と啓発
 - ・学習上の支援機器等教材活用促進と特別支援教育教材振興予算(学校配分予算)の新設 等
- 発達障害のある児童・生徒に対する個別的教育支援計画の作成・活用・引継ぎを義務付けすること
- 早期からの教育相談・支援体制を整備すること
 - ・発達障害支援アドバイザーの拡充と増員 等
- 後期中等教育における発達障害のある生徒に対する支援体制を強化すること
 - ・特別支援教育コーディネーターの専任としての配置
 - ・高等学校における養護教諭への発達障害に関する専門的な研修と配置の拡充
 - ・高等学校における福祉や労働等の関係機関と連携しながらの就労支援体制の整備 等
- 大学等の高等教育における発達障害のある学生に対する支援体制を整備すること
- 教員の専門性の向上、教員への支援体制を整備すること
- 学校外の人材・資源・資格等の活用を推進すること
- 発達障害の特性に応じた災害時の支援対策を整備・周知すること

<中長期的な要望>

- 特別支援教室構想について、インクルーシブ教育システム構築の中で検討を行うこと
- 学習面の困難に対する取り組みを強化すること
- LD、ディスレクシア等の視覚認知等に困難を持つ発達障害者が、個々の特性に合わせ多様な手段・手法・技術によりバリアフリー化された図書や教科書を無償かつ容易に利用できるよう、各種の支援手段・技術の開発、普及に取り組むこと
- 発達障害に対する社会的理解の向上に取り組むこと

平成27年度 厚生労働省関係予算要望事項

【厚生関係】

<予算要望事項>

- 身近な地域での発達障害児者およびその家族に対する支援を推進すること
 - ・早期発見・早期発達支援の実施にむけた市町村に対する支援の拡充等
- 発達障害者支援センター事業を拡充すること
 - ・専門相談員の拡充・地域支援ネットワークの充実等
- 乳幼児から成人までの発達障害に対応できる医療機関を拡充すること
- 発達障害者に対する情報支援体制の整備を拡充すること
- 発達障害の特性に応じた災害時の支援対策の整備・周知
- 発達障害に対する理解、啓発を促進すること
 - ・発達障害情報・支援センターの拡充

<中長期的な要望事項>

- 発達障害をふくめ、障害者の所得保障制度を拡充すること
- 長期的な展望に立った発達障害の専門的人材の育成と専門職の位置づけを明確化すること

【労働関係】

<予算要望事項>

- 地域障害者職業センターにおいて、障害者手帳を保持していない発達障害者について、雇用対策上の「判定」の導入を進めること
- 発達障害者に対する相談体制の整備と多様かつ効果的な職業訓練、職場実習制度を充実すること
- 地域における障害者の職業能力開発および職業訓練を強化すること
- 発達障害者の雇用機会を拡大すること
- 公的機関における発達障害者の雇用を促進すること
- 雇用・就業関係機関職員や事業所に対する発達障害関係の研修を充実すること
- 障害者就業・生活支援センター事業を拡充すること
- 継続して働き続けるための支援を充実すること

<中長期的な課題に関する要望>

- 労働・雇用分野での障害を理由とする差別の禁止、職場における合理的配慮の提供を確保するため、発達障害の特性を考慮に入れ必要な措置を推進すること

「LD等の発達障害のある高校生の実態調査報告書 II」全国LD親の会・会員調査報告発行予定

NPO法人全国LD親の会の高校生相当のお子さんと保護者を対象に、2012年12月から2013年1月にかけて実施したアンケートの報告書「LD等の発達障害のある高校生の実態調査報告書II」を発行します。

2007年4月に学校教育法が改正され、特別支援教育が法律に基づいて正式にスタートしました。

これまで全国LD親の会では、学校教育法の改正約1年前の2005年12月から2006年3月にかけて、高校段階における必要な支援について、支援を受けるユーザーの立場からの意見・ニーズを明確にするために、高校生の子どもを持つ保護者(会員)と本人(会員の子ども)向けのアンケートを実施し、その結果を「LD等の発達障害のある高校生の実態調査報告書」としてまとめ、発行しました。

今回は特別支援教育開始から5年経過した2012年に、高等学校の特別支援教育がどのようになっているか、高校段階における必要な支援はニーズに応じて受けることができているか、さらに新たに必要性が見えてきた支援があるか等について調査するために、再度、保護者と本人を対象にアンケートを実施しました。その結果、保護者357人(前回は315人)、本人324人(前回は266人)から回答をいただきました。

本報告書では、今回の調査が高校生の実態調査としては二度目となるため、アンケート結果の集計だけでなく、前回(7年前)のアンケート結果との比較も行い、ニーズが変化しているのかについても併せて分析します。

また、中学生と異なり、高校生は卒業後に進学や就業など幅広い分野に巣立っていくので、高校卒業後の18歳以上を対象とした「教育から就業への移行実態調査」(2011年3月発行)とのデータの関連性も報告します。

学校教育法や発達障害者支援法などの法律が整備されても、具体的なニーズを的確に発信していくことは今後とも必要であり、本人や保護者が行っていかなければならないことです。

そのニーズの発信に際して、「個人の意見」は大切なのですが、「個人の意見」を基にした「共通で一般的な意見」の方が説得力があります。また、「共通で一般的な意見」と異なる場合でも、「ここまでは同じでもここが異なる」と言えば、ニーズがより分かりやすくなります。

会員の皆さんの協力で作成できた報告書です。是非、活用してください。また、報告書を発行するにあたり、プライバシーに関わる答えにくい質問にも、丁寧に回答して下さったアンケート協力者の皆さんに、改めてここに深く感謝致します。

調査報告書の構成:

はじめに

第I部 保護者対象の調査

第1章 アンケート調査概要

第2章 中学校での状況

1. 中学校の学級籍
2. 中学卒業後の進路

第3章 高校での状況

1. 高校入試の状況
2. 高校在籍者の現況
3. 教育体制

第4章 高校生活

1. 教科学習の状況
2. 学校生活(教科学習以外)の状況
3. 進路について

第5章 保護者の心配

1. 告知
2. 保護者の心配

第6章 地域による比較

第II部 本人対象の調査

第1章 アンケート調査概要

第2章 学校生活

1. 学校選択
2. 学校生活

第3章 対人関係と生活指導上の問題

1. 対人関係
2. 生活指導上の問題

第4章 自己理解

1. 自己理解
2. アルバイト
3. 進路希望

資料 アンケート調査用紙

保護者対象の調査

本人対象の調査

おわりに

発行予定:6月 (定価:1,000円)

各会への販売:5月上旬に予約受付開始

【お願い】

予約特別価格を設定していますので、5月25日締め切りまでに事務局へお申込み下さい(詳細は、後日連絡)。

申し訳ありませんが各会への送付は送料の負担をお願い致します。
(東條)

一般社団法人 日本発達障害ネットワーク (JDDネット)より

例年12月に年次大会を行っていましたが、今年は7月に北海道で年次大会を行います。現段階の概要をお知らせします。詳細スケジュールと参加要項は追って連絡しますので、夏の北海道でお会いしましょう。

日本発達障害ネットワーク 第10回年次大会

日時:2014年7月5日(土)~6日(日)

会場:北海道立道民活動センター「かでの2・7」

テーマ:

「子育て支援からの発達支援そして発達障害支援」

プログラム概要:

1日目(7月5日)

1日目は、まずJDDネット発足当時をご存じの方々から発言を頂き、JDDネットが成し遂げてきたことを再確認し、次に、新たな発達障害支援の展開に対するJDDネットの展望について、議論を通じて共有する機会とします。

・JDDネットの10年の歩み

司会:田中康夫

登壇者:山岡修、藤堂栄子、高山恵子、氏田照子

・JDDネット10年の展望

司会:市川宏伸

登壇者:新保文彦、東條裕志、橋口亜希子、藤堂栄子

2日目(7月6日)

2日目は、会場を分け、「乳幼児期・就学前・学齢期・思春期・成人期における支援を考える」、「発達障害の支援を考える議員連盟の先生方と親の会との意見交換」、「障害者権利条約批准後の発達障害支援について、国と北海道の施策を通して課題と解決へのヒントを共有」の機会とします。

・思春期における親子支援を考える

・議連の先生方と親の会参加者の対話

・成人期の生活をどう支えるか

・親支援に向けた乳幼児健診と健診後の支援体制を考える

・就学前の親子支援を考える

・学齢期における親子支援を考える

・障害者権利条約批准後の発達障害支援を考える

— 国の施策からの展望 —

・障害者権利条約批准後の発達障害支援を考える

— 北海道の施策からの展望 —

JDDネット各支部の展示:7月5日、6日

懇親会:7月5日(土) 18:30~20:30

会場:ホテル ポールスター

(東條)

全国特別支援教育推進連盟 より

2月4日、全国特別支援教育推進連盟 第4回理事会が開催され、文部科学省特別支援教育課 大山課長より、平成26年度特別支援教育関係予算案について説明がありました。「障害者の権利に関する条約」の批准、障害者基本法の改正をうけ、障害のある児童・生徒一人ひとりの特性に応じた教育(合理的配慮)が法的に義務付けられ、そのためのインクルーシブ教育システム構築に向けて事業が進められます。

<26年度特別支援教育関係予算案 概要>

○インクルーシブ教育システム構築事業

・早期からの教育相談・支援体制の構築

(40地域・早期支援コーディネーター約120人の配置)

・インクルーシブ教育システム構築モデル事業

(65地域・合理的配慮協力員約130人の配置)

・特別支援学校機能強化モデル事業

(36地域・ST、OT、PT、心理学の専門家等約720人の配置)

・「合理的配慮」普及啓発セミナーの開催 等

○学習上の支援機器等教材活用促進事業

・ICTを活用した教材など、児童生徒の障害の状態等に応じて使いやすい支援機器等を開発、支援機器等を活用した指導方法等に関する実践的な研究を実施

○発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援・教職員の専門性向上事業

・学校生活への不適応を防ぐための指導方法の改善、早期支援の在り方について研究(40地域、5大学)等

○自立・社会参加に向けた高等学校段階における特別支援教育充実事業

・労働、福祉の関係機関等と連携し、高等学校段階におけるキャリア教育、就労支援等の充実を図る事業を実施

予算案の詳細につきましては、文部科学省 HP より、「特別支援教育 平成26年度実施事業(予定)」をご参照ください。

(多久島)

一般社団法人 日本LD学会 第23回大会案内

日時：2014年11月23日(日)～24日(月・祝)

場所：大阪国際会議場 〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3番51
京阪電車中之島線「中之島(大阪国際会議場)駅」2番出口すぐ
JR環状線「福島駅」から徒歩10分

【大会テーマ】 「より効果的な支援をめざしてー学習支援から問う特別支援教育ー」

【大会長】 小野 次朗 先生 (和歌山大学教育学部)

【大会ホームページ】 http://www.jald.or.jp/jald_annual_congress_2014_001.html

【参加申込】(親の会会員用)

親の会の方は、学会ホームページの「予約参加等申込フォーム(非会員用)」から、予約参加等の申込み(受付期間:2014年4月1日～7月1日)を行って下さい。ただし、学会の会員の方は「会員」として参加下さい。当日参加が可能とのことです。当日参加希望の親の会の方は、「親の会」受付で手続きをして下さい
<大会参加費> 親の会: 予約参加 4000円 当日参加 4500円

今年のLD学会大会は2日間の予定で大阪市内で開催されます。

親の会では、例年どおり、「親の会企画シンポジウム」・「親の会紹介ポスター展示」を企画させていただくことになりました。親の会企画シンポジウムは「高等学校における特別支援教育」をテーマに企画を進めているところです。「親の会懇親会」も行う予定です。最新情報がたくさん勉強できる絶好の機会です。ふるってご参加ください。詳細については、後日お知らせいたします。

国連の障害者権利条約に批准

日本政府は2014(平成26)年1月20日、国連の「障害者権利条約」を批准しました。「障害者権利条約」は、障害者の人権や基本的自由の享有を確保し、障害者の固有の尊厳の尊重を促進することや、障害者の権利を実現するための措置等を以下のとおり規定しています。①障害に基づくあらゆる差別(合理的配慮の否定 ※を含む。)を禁止 ②障害者が社会に参加し、包容されることを促進 ③条約の実施を監視する枠組みを設置、等(※過度の負担ではないにもかかわらず、障害者の権利の確保のために必要・適当な調整等(例:スロープの設置)を行わないことを指します。)

条約を締結すると条約の実施を監視する枠組みや、国連への報告義務などによって我が国の取組が後押しされ、以下について強化推進されます。①我が国における障害者の権利(障害者の身体的自由や表現の自由等の権利、教育や労働等の権利)の実現に向けた取組が促進されます。②人権尊重についての国際協力が一層推進されます。これまでの流れを紹介します。

【世界】2006(平成18)年12月13日:「障害者の権利に関する条約」国連総会で採択

2008(平成20)年5月3日:「障害者の権利に関する条約」発効

※2014(平成26)年1月20日現在の締約国は、140か国及び欧州連合

【日本】2007(平成19)年9月28日:「障害者の権利に関する条約」に署名

2011(平成23)年8月5日:「障害者基本法の一部を改正する法律」公布・施行

2013(平成25)年6月19日:障害者の雇用の促進等に関する法律の一部を改正する法律

【通称:障害者雇用促進法】公布(施行28年4月1日)

2013(平成25)年6月26日:「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」

【通称:障害者差別解消法】公布(施行28年4月1日)

2013(平成25)年12月4日:「障害者の権利に関する条約」参議院本会議批准承認

2014(平成26)年1月20日:日本国の批准書を国際連合国連事務総長へ預託(2月19日から効力)

親の会設立準備を進めています！ 福島県、東京東部

●福島県

福島県にはかつて会員数80人を超える親の会があったのですが解散となり、2005年からは全国LD親の会に加盟する親の会が無い状態が続いています。

震災後、改めて地域活動に連携が必要と考え、2012年～2013年と講演会や相談会・茶話会を行いながら、保護者に集まってもらおうと機会を設けてきました。けれども保護者の方々まで情報が伝わらなかったためか、なかなか参加を頂けませんでした。何もないところから親の会を立ち上げることの難しさをあらためて感じています。

しかしながら、活動を行っていくうちに、困っている保護者(と本人)は間違いなくいるということが分かってきました。中でも高校に入ってから不登校になってしまったり、退学してしまったり、あるいは卒業しても就職できなかつたり、就職してもすぐ辞めてしまったりするということで困っている人の存在を多く耳にしました。

今年度は、これまで設立支援活動を行っていた中心地域を移し、また対象者の中心も小中学生の親だけでなく、もう少し上の年齢層に向けた相談会や茶話会を開催し、困っている保護者と少しずつ前向きな話ができるようにして行きたいと思っています。(東條)

●東京東部

第2回茶話会:1月27日(月)11:00～13:00

会場:南小岩コミュニティ会館 集会室

今回は、すでに登録されている江戸川区在住の保護者と、その知人で足立区在住の保護者が初参加されました。地域で子どもの遊び場作りにもかかわっておられるとのことで、お互いに情報交換をし、今後についての話し合いを持ちました。またその中で、自分の身近な所に信頼し相談できる仲間や活動のネットワークが存在することの大切さを、参加者で確認し合いました。

東京東部地区は、2013年2月のサポートツール研修会開催時に親の会設立準備会をスタートさせ、1年が経過しました。以後、全国親の会の事務局や近隣親の会に個別に問い合わせはあるものの、残念ながら具体的な仲間作りへの広がりには至っていません。

今後は、まず保護者同士の仲間作りの輪を広げていくため、新たな研修会の企画や親の会準備会への参加の呼びかけを幅広く行っていきたくと考えています。次回の集まりについては、全国親の会ホームページを通じてお知らせします。皆様のご協力をよろしくお願いします。

(木村)

高知LD親の会「sky」 高知県にLD等発達障害親の会ができました！

*設立総会 2014年4月13日(日)13:00～13:30

会場:高知市東部健康福祉センター 3階 集会室
高知市葛島4丁目3-3

*設立記念講演

「発達障害児に対する支援について」

講師:寺田 信一 先生(高知大学教育学部教授)

日時:2014年4月13日(日)14:00～15:30

会場:高知市東部健康福祉センター 3階 集会室

参加費:会員 500円 非会員 800円

主催:高知LD親の会「sky」

後援:NPO法人全国LD親の会

4月13日(日)、高知LD親の会skyの設立総会が開催されました。全国LD親の会では、2012年12月の山田充先生(特別支援教育土スーパーバイザー)による教育講演会「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用～使い方で変わる教材の有効性～」以来、高知県でのLD等発達障害親の会を作る準備を進めてきました。

2013年4月には「保護者による子育てトーク&座談会」、そして2013年9月には、梅田真理先生(国立特別支援教

育総合研究所)による教育講演会「特別な関わりの必要な子どもたちへの理解と支援～子どもへの対応の基本を学ぼう」を開催してきましたが、その間、概ね毎月1回、高知の親の会設立準備会の皆さんが集い、設立に向けて話し合ってきた積み重ねは大変大きいと感じています。

特に、今回の高知LD親の会skyの設立記念講演会開催にあたっては、講師の先生を設立準備会の皆さんで決めて依頼し、準備を進めてこられたことに、設立をお手伝いする全国LD親の会の役員のほうが大きな勇気をいただきました。発達障害の子どもを持つ保護者どうし、全国で支え合う仲間が増えて、大変嬉しく思います。

今年1月20日、日本もようやく障害者権利条約(権利条約)に批准し、「共生社会」の実現に向けて大きく動き出しました。その同じ年に、高知LD親の会skyが設立されたこととなります。発達障害のある子どもたちが、相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合うような共生社会の中で暮らしていけるよう、高知での活動を展開していくことと思います。

設立総会・設立記念講演会の様子は、次号のかけはしでご報告いたします。(井上)

東北ブロック便り

青森LD親の会「こんぺいとう」、岩手発達障がい親の会「くぶくぶ」、秋田LD・AD/HD親の会「アインシュタイン」の活動紹介です。

あつまる・あそぶ・まなぶ・はたらく・つながる ……ハートが
ふるフルfull な一日 青森LD親の会「こんぺいとう」

青森市で活動している平成12年11月に発足の発達障害児・者とその親の会です。全体交流活動として、田植え、稲刈り、収穫祭、クリスマスマーケット等を行っています。また、幼児から成年まで、グループ毎に活動・合宿・旅行などを行っています。私たち親と子は小集団での学習や遊び・色々な体験を通して、身に付けたことを家庭・学校・社会それぞれの場面に生かし、自信を持って輝いていくことを願って、活動しています。また仲間や自分の居場所作りにもなっている。専門家・教員・学生ボランティア・地域の方々の協力・サポートをしていただいで活動しています。

今回は、2月に開催したイベント『HEARTふるふる2014』を御紹介します。説明会&準備委員会(大人会員、子ども会員)を立ち上げ、子ども達と保護者の想いが詰まったチラシが完成、みんなの手から手へ配布され、事前の活動では、企画会議や練習・商品づくりを行いました。冬休み中には当日会場で行われるワークショップ(「虹染め」「ペーパークラフト&ボディペインティング」「蜜ろうキャンドル作り」「アフリカの打楽器のジャンベ体験」)を体験しました。

さて当日は①こども購買部(みんなで田植え稲刈りした「みんなのお米」やオリジナルカレーランチ、フランク、パン、スイーツセットを販売)②ワークショップ(パステルアート等)③こどものためのハローワーク(建築家、板前さんなど、いろんな職業のお父さんのお話)④こんぺいとうPR大作戦(キッズ、ジュニア、社会人になった先輩がこんぺいとうをPR。それぞれの想いを紙に書いて準備・発表)⑤ジャンベでアフリカ体験⑥こんぺいとうの木&蜜ろう(ワークショップで作った「こんぺいとう」や「キャンドル」出現)など盛りだくさんの内容で、「あつまる・あそぶ・まなぶ・はたらく・つながる」ハートがふるフルfull な一日でした。

「親の笑顔」が一番の療育

岩手発達障がい親の会「くぶくぶ」

「くぶくぶ」は、2008年9月にエブリ教室(発達障がい児の支援研究のための教室)に通っていた子どもの親(6名)が中心になり立ち上げた会です。設立以来、様々な悩みを抱える発達障がい児の家族の心に寄り添い、悩みを共有する中で、一人でも多くの親御さんが笑顔で楽しく子育て

てができる事を目標に活動してきました。

設立当初は、講演会等の啓発活動にも力を入れましたが、東日本大震災後、活動がやや停滞してしまいました。その間でも続けてきたことが「くぶくぶ座談会」です。毎年進級や進学を控えた時期、自分たちが誰かに相談したいと思った経験から、会員以外の方に呼びかけ、「座談会」という名前でグループ交流会を行っています。参加された方々からは、「みなさん、明るいですね。」「元気が出ました。」などの感想をいただいでおり、これをきっかけに入会される方々もおります。毎月1回の定例会も、会員同士の悩みの交流が中心です。入会希望の方、相談希望の方にも定例会に参加していただき、ピアカウンセリングのような形で進めています。

子供たち中心の活動としては、月1回定例会の開催時のSTEP(岩手県立大学佐藤匡仁先生の研究室の学生さんの協力によるソーシャルスキルトレーニング)や家族参加でのバーベキュー、スキー教室、新幹線・地下鉄乗車体験「仙台ツアー」などを行ってきました。

就労、自立等課題はたくさんありますが、「JDDネットいわて」をはじめ関係機関の皆さんと協力しながら、誰もが笑顔で暮らせる岩手を目指して活動を続けていきたいと思ひます。

「学生ボランティアと二人三脚で歩む、親と子の拠り所

秋田LD・AD/HD親の会「アインシュタイン」

当アインシュタインが発足したのは平成10年です。当時は「LD児・者」親の会でしたが、その後、ADHDやアスペルガーなど、バラエティーに富む子の親も参加していることから、平成16年に今の名称になりました。

当会では、月2回、日曜日に定例会を行い、親が情報交換をしたり近況などを話し合ったりしています。話すことで、元気を取り戻す場となっています。秋田大学の学生ボランティアによる「かりんどう教室」という活動も行っています。これは、定例会の時間帯に託児をしてもらっていたのを発展させ、子どもたちの居場所づくりとして、学生たちが子どもたちとゲームや工作などを行うものです。しかし、最近は小さい子どもが少なくなってきたため、フリートークなど、話し相手になる活動が多くなってきました。その他、会の裾野を広げる活動として、会員以外の悩みを抱えている親を対象とした平日のおしゃべり会を月1回程度開催しているほか、15歳以上の子どもを持つ親限定の「ぶどうの会」など、活動のバリエーションを広げつつ、年1回の宿泊行事や学生との新年会など、楽しめる活動を企画しています。

以前は教育行政に対する要望活動にも力を入れていましたが、子どもの年齢層が上がってくるにつれ、会員の困りごとが、学校生活から人生全般へと変化して来ています。会の活動も、就労を目指した活動等、自立への取り組みも取り入れて行こうとしています。

●NPO法人全国LD親の会 活動報告

- 1月13・14日 JDDNET ペアレント・メンター公開講座・コーディネーター研修(内藤孝)
- 1月16日 「かけはし77号」発行
- 1月27日 東京東部地区親の会設立準備会(木村・内藤聖)
- 2月04日 全国特別支援教育推進連盟第4回理事会(多久島)
- 2月13日 高津成和会「発達障害のある人のピア活動支援事業」事業完了報告書送付
- 2月15・16日 ボランティア支援員養成講座(東京)(内藤孝・内藤聖・井上)
- 2月16日 サポートツール全国キャラバン2013「教材教具研修会」in 静岡
- 2月23日 NPO法人全国LD親の会第16回評議員会、NPO法人全国LD親の会第20回理事会
- 2月24日 日本障害者協議会に意志疎通支援に関わる追加資料送付
- 2月26日 日本財団2014年度助成決定
 - ・発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化
 - ・特別支援教育支援員養成事業
- 2月28日 文部科学省平成25年度特別支援教育ネットワーク推進委員会(東條)
- 3月01日 サポートツール・データベース事業 運営会議(内藤孝・井上)
- 3月06日 日本理学療法士協会2013年度助成金報告書提出(空白県対応)
- 3月09日 特別支援教育支援員養成事業実行委員会(内藤孝・山岡)
- 3月09日 関東ブロック会議(東條)
- 3月23日 JDDネット理事会(東條)
- 3月26日 「特別支援教育支援員養成講座テキスト(下巻)」発行
- 3月28日 全国特別支援教育推進連盟へ活動報告送付(多久島)
- 4月01日 2013年度サポートツール・データベース事業(日本財団)事業完了報告書を提出
- 4月08日 平成27年度予算要望書(JDD ネットに提出)

●第20回理事会報告

日時:2014年2月23日 16:30-17:00 場所:渋谷区氷川区民会館

出席者:井上育世、梅野真澄、多久島睦美、東條裕志、内藤孝子

[議案]

NPO法人全国LD親の会第16回評議員会の審議について

<審議事項>

- ・理学療法士会への助成金申請(公開フォーラム開催)について
 - ・高校生アンケート報告書の発行について
 - ・平成27年度予算要望(文部科学省、厚生労働省)について

<決議>

全員一致で、第16回評議員会における審議結果を承認した。



●2014年度会員名簿更新のお願い

2014年度の会員名簿の更新について、更新用のデータを各親の会事務局宛にメールで送ります。

新年度の繁忙期で恐縮ですが、2014年5月15日までに返信して下さい。

(総会などの都合で5月15日までに役員などが決まらない場合はその旨を連絡して下さい。)

●事務局体制の変更

2013年度までは木曜日が事務局対応日となっていたのですが、2014年度からは事務局対応日が火曜日となります。電話での問い合わせは火曜日をお願いします。(FAX・メールの受信はいつでも可能ですが、返信に時間をいただくことがありますので、ご了承下さい。)